

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	84人	社会	84人	数学	84人
	理科	84人	英語	84人		

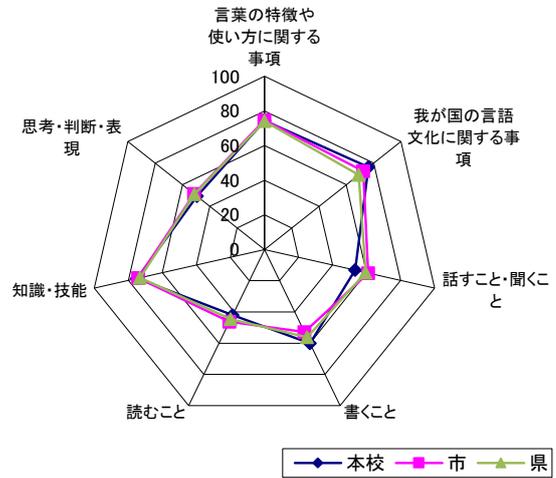
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	74.4	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	76.2	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	53.3	60.9	59.5
	書くこと	60.1	52.8	56.2
	読むこと	42.1	46.2	44.5
観点	知識・技能	74.8	74.2	73.1
	思考・判断・表現	49.4	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

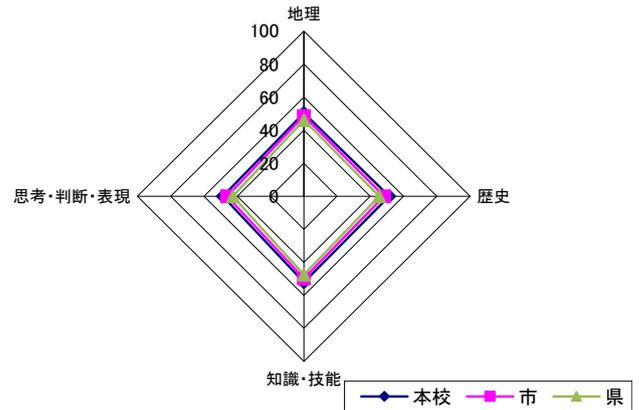
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○敬語の働きの理解についての問題の正答率は、61.9%であり、県の平均を1.5ポイント上回っている。 ●文節の理解についての問題の正答率は、75.0%であり、県の平均を5.3ポイント下回っている。文法事項を理解することに課題が見られる。	・敬語については授業だけではなく、社会体験学習やその他の学校行事のなかでさらに身に付けさせ、定着を図りたい。 ・文法は、1年生の基礎的な部分からの復習を授業の中で何度も行っていくことで定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題の正答率は73.8%であり、県の平均を9.4ポイント上回っている。	・古典の授業において、引き続き歴史的仮名遣いをしっかりと学ばせ、知識として定着を図る。 ・古典の分野において生徒の興味・関心を高めていく授業を実践していく。
話すこと・聞くこと	○話し手が話した内容を説明した文を選ぶ問題の正答率は84.5%であり、県の平均を3.1ポイント上回っている。文章を適切に読み取ることに良好な状況が見られる。 ●話し手の話し方として適するものを選ぶ問題の正答率は44.1%であり、県の平均を14.0ポイント下回っている。	・聞き取りテストの継続的な実施はもとより、スピーチ発表や、グループ学習の機会を増やしていきたい。 ・スピーチなどの話し合い活動において、しっかりと筋道を立てて話をするを身に付けさせたい。
書くこと	○中学生の読書をする機会を増やすために効果的なことについて書く問題の正答率は70.2%であり、県の平均を8.5ポイント上回っている。指定された長さで文章を書くことに良好な状況が見られる。 ●無解答率は9.5%であった。	・「短文を書く」指導は、地域学校園での重点目標になっており、継続的に行われているため、特に力を入れて指導している単元である。引き続きこれらを指導していくことで、「書く」能力を育成したい。
読むこと	○筆者の考えを説明した文の空欄に当てはまる言葉を書く問題の正答率は35.7%であり、県の平均を4.7ポイント上回っている。文章の内容について、叙述を基にして捉えることに良好な状況が見られる。 ●登場人物の考えを説明した文の空欄に当てはまる言葉を書く問題の正答率は7.1%であり、県の平均を1.8ポイント下回っている。文章の内容について文章の叙述を基に捉えることに課題が見られる。	・説明的文章については授業の中で、指示語や接続語を意識して、取り組み方を伝える時間を確保し、解説をしているため、その成果がわずかであるが表れてきていると考えられる。引き続き実践していきたい。 ・物語文については、心情を読み取らせたり、心情の変化を捉えさせたりする指導を、クロームブックを用いて他者との意見交換などを通して引き続き行っていく。授業の中の対話的な発問を繰り返していくことで生徒一人一人の深い読みを実現していく。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	50.4	48.6	46.2
	歴史	51.4	48.3	45.3
観点	知識・技能	52.1	49.8	47.5
	思考・判断・表現	48.6	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

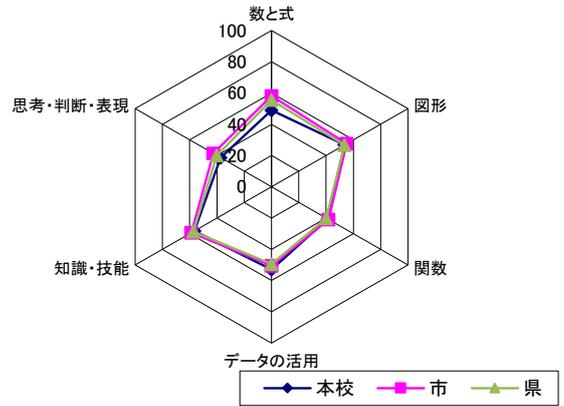
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>○緯度・経度を用いて地球上の位置について表現しているかどうかをみる問題の正答率が46.4%で、県平均を11.7%上回っている。</p> <p>○資料から原油の国際価格の変化の特徴を読み取り、表現しているかどうかをみる問題の正答率が60.7%で、県平均を10.9%上回っている。</p> <p>●世界各国の国土面積と、領海と排他的経済水域の面積の相対的な特徴について理解しているかどうかをみる問題の正答率が45.2%で、県平均を4.3%下回っている。</p> <p>●世界各地で見られる気候区分の特色について理解しているかどうかをみる問題の正答率が28.6%で、県平均を2.6%下回っている。</p>	<p>・昨年度から引き続き、資料の読み取りについては、世界各地や日本各地の特徴と関連付けながら読み取れるよう指導するとともに、既習内容に触れたり、読み取る際に着目する点を意識付けたりする。</p> <p>・1つの資料から読み取ることは、十分できていると考えられるが、複数の資料を比較したり、いくつかの情報を読み取ったりする力を身に付けられるよう指導する。</p> <p>・思考・判断・表現をするための基礎的な知識・理解の定着を促すため、随時、既習内容の振り返りの時間を設ける。</p>
歴史	<p>○資料を基にして、弥生時代のムラの様子について考察し、表現しているかどうかをみる問題の正答率が78.6%で、県平均を22.8%も上回っている。</p> <p>○複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察し、律令制下の負担に対し農民たちがとった行動について表現しているかどうかをみる問題の正答率が58.3%で、県平均を14.6%上回った。</p> <p>●室町時代の社会の様子について理解しているかどうかをみる問題の正答率が42.9%で、県平均を2.4%下回っている。</p> <p>●複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察し、摂関政治が衰えた理由について表現しているかどうかをみる問題の正答率が36.9%で、県平均を0.8%下回っている。</p>	<p>・昨年度から引き続き、それぞれの時代の文化や政治など、その時代の特色を捉えられるようなまとめの活動を充実させるとともに、それぞれの時代で活躍した人物や関わりの深い建物など、学んだことを結び付けたり、比較したりする活動を通して指導する。</p> <p>・政治・経済・社会の様子を、時代ごとに比較させる活動を取り入れることで、より一層の知識・理解の定着を図る。</p>

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	49.0	58.2	55.5
	図形	53.6	55.1	53.5
	関数	41.2	41.9	40.2
	データの活用	52.9	50.5	49.4
観点	知識・技能	56.6	58.8	57.3
	思考・判断・表現	37.3	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

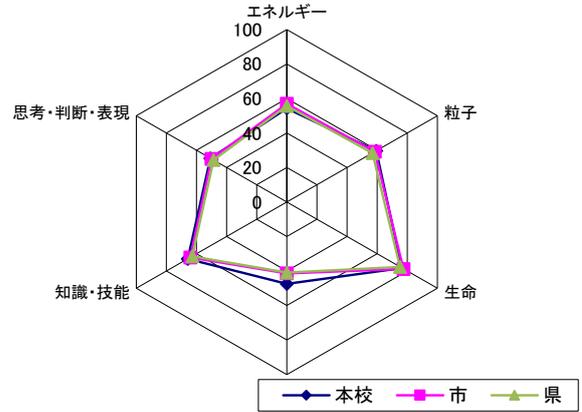
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○「与えられた文章題に対して、適切な1次方程式を立式する。」問題の正答率が33.3%であり、県平均の34.1%とほぼ同程度である。</p> <p>●数と式の領域では、正答率が49.0%で、県平均を6.5ポイント下回っている。特に、「負の数の累乗の計算をする。」の問題の正答率が67.9%で、県平均を11.8ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1次式の計算や方程式の反復練習を行い、計算力を高める。 ・基本的な計算のみまり、文字の使い方などが定着していないので、小テストを利用して、確認する時間を設けていく。
図形	<p>○図形の領域では、正答率が53.6%で、県平均を0.1ポイント上回っている。特に、「回転移動したときの回転の中心を答える。」問題の正答率が91.7%で、県平均を5.1ポイント上回っており、「回転移動したときの回転の角度を答える。」問題の正答率が67.9%で、県平均を5.0ポイント上回っている。</p> <p>●「円柱の側面積を求める式について、当てはまる言葉を答える。」問題の正答率が19.1%であり、県平均を8.9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・回転体の体積や表面積の求め方について復習する時間を授業で設けて、確認させていく。また、平行や垂直、ねじれの位置といった、空間図形の位置関係については、図形の単元において1年生の復習を加えながら指導をする。 ・関数のグラフの学習においても、回転体を取り入れ、空間図形に触れる場面を増やし苦手意識をなくしていけるようにする。
関数	<p>○関数の領域では、正答率が41.2%で、県平均を1.0ポイント上回っている。特に、「与えられた表をもとに、比例のグラフをかく。」問題の正答率が20.2%で、県平均を9.3ポイント上回っており、「与えられたグラフをもとに、正しいものを選ぶ。」問題の正答率が54.8%で、県平均を4.7ポイント上回っている。</p> <p>●「与えられた考え方をもとに、正しいグラフを選ぶ。」問題の正答率が33.3%であり、県平均を4.0ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の基本である表・式・グラフを関連させて考えられるように指導する。 ・1次関数の単元では、比例や反比例の復習を加えながら行うことで、それぞれの関数の特徴を把握できるようにする。 ・グラフの利用の学習では、求め方を説明させたりするなど、対話的な学びができるような場面を設ける。
データの活用	<p>○データの活用の領域では、正答率が52.9%で、県平均を3.5ポイント上回っている。「ヒストグラムから、その総度数を答える。」問題の正答率が86.9%であり、県平均を7.4ポイント上回っている。</p> <p>●「ヒストグラムの山の形が異なる理由について、当てはまる言葉を答える。」問題の正答率が32.1%で、県平均を0.9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・累積度数や、資料の活用における用語の復習を行う機会を設け、基礎基本の定着を図っていく。 ・データの特徴を捉えさせるとともに、累積度数や相対度数、最頻値、平均値などを活用することの意味を感じられるようにするため、日常生活の場面を多く取り入れるようにする。 ・データを効果的に収集したり、まとめたりする際に、ICTの活用を図る。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	54.3	57.0	55.7
	粒子	59.5	58.6	56.9
	生命	76.4	77.5	75.2
	地球	47.4	41.4	40.9
観点	知識・技能	65.8	64.1	62.8
	思考・判断・表現	50.8	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

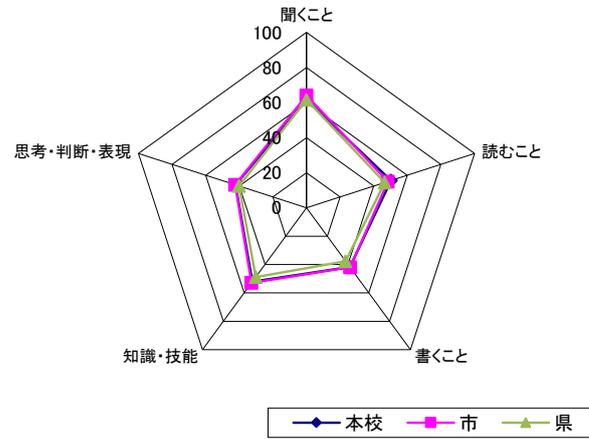
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○鏡に映った像が見える範囲についての問題の正答率が、県平均を3.3ポイント上回っている。虚像の見え方について演習を行い定着を図った成果であると考えられる。</p> <p>●光の反射の道すじを作図する問題の正答率が、県平均を13.5ポイント下回っている。反射の法則をもとに作図をする問題に課題が見られる。</p>	<p>・引き続きグラフや作図の書き方を丁寧に指導し、内容の定着を図る。</p> <p>・光の反射、屈折に関するさまざまな現象に関心を持たせるとともに、作図によってそれらの現象を説明する場面を設定することで、基本的な知識を応用する力を身に付けさせる。</p>
粒子	<p>○領域全体の正答率が、県平均を2.6ポイント上回っている。特に、酸素の発生方法を選ぶ問題の正答率が、県平均を15.9ポイント上回っている。気体の発生の実験を丁寧に指導した成果であると考えられる。</p> <p>●実験結果から混合物を特定する問題の正答率が、県平均を3.5ポイント下回っている。実験結果を整理し、結論に結びつけることに課題が見られる。</p>	<p>・今後も実験に意欲的に取り組めるように、発問や教材を工夫していく。</p> <p>・思考力・表現力を高めるために、実験の考察やまとめの時間を十分に確保し、自分の言葉で説明したり、グループで話し合い考えを深めたりする機会を増やす。</p>
生命	<p>○領域全体の正答率が、県平均を1.2ポイント上回っている。特に、葉脈の名称を答える問題の正答率が、県平均を7.0ポイント上回っている。基本的な知識が定着していると考えられる。</p> <p>●肉食動物と草食動物の頭部のつくりに関する問題の正答率が、県平均を13.0ポイント下回っている。記述式による問題の正答率が低く、課題が見られる。</p>	<p>・今後も基礎的な内容を重視した指導を継続することで定着を深めていく。</p> <p>・生物の体のつくりやはたらきについては、それらの特徴や相違点を、言葉や文章で説明させることで表現力を身に付けさせる。</p>
地球	<p>○領域全体の正答率が、県平均を6.5ポイント上回っている。特に、柱状図を選ぶ問題の正答率が、県平均を15.7ポイント上回っている。地層の広がりを意識した演習を行った成果であると考えられる。</p> <p>●堆積岩を見分ける問題の正答率が、県平均を2.9ポイント下回っている。堆積岩についての基本的な知識の定着に課題が見られる。</p>	<p>・今後も基礎的な内容を重視した指導を継続することで定着を深めていく。</p> <p>・堆積岩や火成岩などができる過程や、それによって生じるつくりの違いに関心を持たせながら、観察・実験に取り組ませることで知識の定着を図る。</p>

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県,市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	61.5	64.0	61.6
	読むこと	50.3	48.4	46.6
	書くこと	41.7	42.0	37.8
観点	知識・技能	52.1	52.9	48.9
	思考・判断・表現	42.2	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○「対話の内容を聞き取り、適切に応答しているものを選ぶ。(いつ話すことができるかとたずねられて)」という設問では、正答率が46.4ポイントであり、県平均と比べて5.6ポイント上回っている。</p> <p>●「絵を適切に表している英文を選ぶ。」という設問では、正答率が70.2ポイントであり、県平均と比べて7.2ポイント下回っている。</p>	<p>○日頃の授業で、スモールトークを積極的に行うことで、生徒が多様な表現に触れながら、多くの英文を聞く機会を設ける。</p> <p>●教師とのインタラクションを通して、適切に応答できるようにしたり、発問の工夫により、話の概要を捉えさせたりする指導を継続的に行う。</p> <p>●教科書のシャドーイングやオーバーラッピングを通して、文字と音の統合を図り聞く力を高める。</p>
読むこと	<p>○「対話とグラフから必要な情報を読み取り、適切なクラスを選ぶ。」という設問では、正答率が59.5ポイントであり、県平均と比べて11.1ポイント上回っている。</p> <p>●「英文から必要な情報を読み取り、適切なイベントを選ぶ。」という設問では、正答率が35.7ポイントであり、県平均と比べて4.9ポイント下回っている。</p>	<p>●教科書の内容をじっくりと読ませ、内容を理解させる指導の成果が表れていると考えられる。今後も継続的に指示語の意味や本文の内容を問う指導を行う。</p> <p>●本文の内容を理解させる際に、音読指導を徹底し、文字と音を結び付けさせながら、読む力を養う指導を行う。</p> <p>●授業中にある程度まとまりのある英文を読む機会を増やし、形式に慣れる機会を多く設ける。</p>
書くこと	<p>○「外国の生徒の依頼に対して、自分の学校について紹介する。」という設問では、正答率が38.1ポイントであり、県平均と比べて9.4ポイント上回っている。</p> <p>●「対話の流れに合った英文を書く。(how を使って状態をたずねる : be動詞の現在形)」という設問では、正答率が14.3ポイントであり、県平均と比べて3.9ポイント下回っている。</p>	<p>●語形や文法事項を問う問題の正答率は高い。今後も話すことと連動した書くことの指導を行う。</p> <p>●語彙力を養う際に、アクティブボキャブラリーになるよう、自分の表現で語彙を使う練習をさせる。</p> <p>●単語テストを定期的に行い、まとまった英文を書くために必要な語彙力を身に付けさせる指導を行う。</p>

宇都宮市立上河内中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習についての質問では、「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答が86.4%で、県の平均を14.2ポイント上回っている。また、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の肯定的回答が72.9%で県の平均を9.1ポイント上回っており、良好な状況が見られる。

○●平日1日当たりの勉強時間に関する回答では、「3時間以上」が4.9%、「2時間以上3時間より少ない」が22.2%、「1時間以上、2時間より少ない」が46.9%、「30分以上、1時間より少ない」が23.5%、「30分より少ない」が2.5%であり、生徒の取り組み方の差が大きいことがわかった。教科ごとに課題の出し方を工夫したり、復習の方法を指導したりしていくことで、家庭での学習時間を増やし、学力向上に繋げていく。

○「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答が85.2%で、県の平均を7.3ポイント上回っている。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答が65.4%で、県の平均を21.7ポイント上回っている。さらに、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定的回答が92.6%で、県の平均を12.1ポイント上回っている。このことから、普段の授業において、自分の意見や質問などを積極的に発言している生徒が多いと考えられる。

●「毎日、朝食を食べている」の肯定的回答が85.4%で、県の平均を5.9ポイント下回っている。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」の肯定的回答が68.0%で県の平均を10.0ポイント下回っている。早寝・早起きの習慣化及び生活リズムの改善に向けた取組が今後の課題である。

●「ふだん(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか」という質問では、4時間以上と回答した割合が22.2%と県の平均を6.1ポイント上回っている。また、「ふだん(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯型、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」という質問でも、4時間以上と回答した割合が22.2%と県の平均を5.6ポイント上回っており、スマホやゲームの利用に課題が見られる。家庭学習とのバランスや時間を決めての利用など、生活の点検や改善の取り組みを図っていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
表現力を高め、自分の考えを伝え合う授業	主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の実施に向け、思考力を深めるために、各教科で共通して「書く時間」を重視した授業を展開する。	「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は85.2%で、県の割合と比べて7.3ポイント高く、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は65.4%で、県の割合と比べて21.7ポイント高い。「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は71.6%と昨年度より3.8ポイント下回った。国語の「書くこと」は県の平均を3.9ポイント、英語の「書くこと」も3.9ポイント上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎的・基本的内容の定着がされていない。	基礎的・基本的内容の定着を図る。AIDリルや振り返り活動の充実を図る。	・各教科で確実に定着させたい内容ではドリル学習(AIDリル等)を根気強く行う。 ・達成目標を小さく設定し、確実に達成できるようにする。 ・家庭学習の習慣化及び質の向上を図る。